

やましろ

2007年2月

第3号



普及センターだより

特集

多様な担い手の連携による地域農業の発展

山城の各地では、自然条件を生かした作物が生産され、収穫物の市場出荷や直売所での販売や、また地産地消の取組も盛んです。本号では、山城で活躍する多様な担い手に焦点をあてました。

いよいよ成園に。南山城村の造成茶園

産地表示の改正に伴い、本場「宇治茶」の生産・流通拡大が求められています。宇治茶の主産地である南山城の茶園では、山間傾斜地が多くを占めるため、茶園管理や収穫した生葉の運搬など、生産者の努力が「宇治茶」を支えています。

そうしたなか、南山城村田山の大規模造成茶園では、若手グループ「茶恋路21」のメンバーが、乗用型機械による、茶園管理に取り組んでいます。

平成14・15年に植栽され、7戸の生産者が管理する8ha余りの茶園は、年を追うごとに生育が進み、いよいよ成園に近づきました。本格的な収穫が見込まれる今年の新茶に向け、春の陽射しを心待ちにしています。



京都府山城北農業改良普及センター
〒610-0331 京田辺市田辺明田1 TEL.0774-62-8686
京都府山城南農業改良普及センター
〒619-0214 木津町木津上戸18 TEL.0774-72-0237
ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/> からどうぞ

あけぼの賞に小西さん



南山城村の小西真理子さんが平成18年度京都府あけぼの賞を受賞されました。

女性農業士として家族経営協定の推進に寄与したことが評価されたものです。小西さんは「今後も女性がきらめくようなお手伝いをしたい」と新たな抱負を語られました。

あけぼの賞とは各分野での能力発揮の著しい女性の功績に対する顕彰です。

黄綬褒章に下岡さん



宇治田原町の指導農業士で、京都府茶生産協議会長の下岡久五郎氏が、長年にわたる茶づくり、栽培技術、宇治茶ブランドの高揚に尽くされたことが評価され平成18年春の黄綬褒章を受賞されました。今後も宇治茶の普及、後継者づくりにますますの活躍が期待されます。

豊かなむらづくり事業で受賞

京田辺市の「普賢寺地域農を考える会」が、「ふれあいの駅」をはじめとした地域づくりの取り組みを認められ、「平成18年度豊かなむらづくり全国表彰事業」において近畿農政局賞並びに農林漁業金融公庫近畿支店長賞を受賞されました。



大日本農会農事功績表彰



八幡市の指導農業士森淳夫氏は、施設園芸による環境保全型農業経営を確立したこと、周年出荷産地づくり及び青年農業者の育成や国際交流に貢献したことが認められ、この度「緑白綬有功章」を受章されました。地域のリーダーとして一層の活躍が期待されます。

平成18年度 京都府農業士に認定された皆さん(敬称略)

区分	氏名	住所・類型	区分	氏名	住所・類型
指導	谷 則男	城陽・花き	女性	上田 明子	京田辺・茶
指導	奥西 良啓	八幡・野菜	女性	吉川 倫子	久御山・野菜
指導	石田 光則	八幡・茶	青年	久世谷幸治	宇治・花き
指導	小山 忠成	宇治田原・茶	青年	大谷 泰弘	八幡・茶
指導	上西 敏夫	精華・花き	青年	藤田 佳宏	精華・野菜

京・流れ橋クッキー(緑茶テアニン入り)



昨年、府立茶業研究所から報告があった、茶成分テアニンが豊富なクッキーを八幡市の「食彩の会」が、新製品「京・流れ橋クッキー」として試作されました。東京での試食会に出品して高い評価を得ており、実用化に向けた準備がすすんでいます。

タバコナジラミ バイオタイプQ

新たな害虫!!

～「農薬が効きにくいコナジラミ」は要注意～

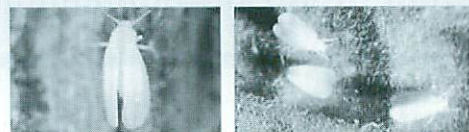
① タバコナジラミバイオタイプQって?

薬剤抵抗性が高く、黄化葉巻病のウィルスを媒介する新タイプのコナジラミが確認され、農作物への被害が深刻になっています。

② 生態と見分け方

- ・体長 0.8mm、体幅 0.4mm
- ・発育期間 卵～蛹 約18日、成虫 約28日
- ・単為生殖(♂♀の区別がない)とされています。
- ・オンシツコナジラミと比較して薬剤が効きにくい。

	タバコナジラミ	オンシツコナジラミ
成虫	翅が重なっていない	翅が重なっている
幼虫・蛹	体色は黄色で毛が少ない	体色は白っぽく毛が多い



▲ タバコナジラミ ▲ オンシツコナジラミ

③ 被害の特徴

- ・トマト黄化ウィルスを媒介。(トマト・ミニトマト・トルコギキョウで発病)
- ・成虫・幼虫の吸汁による生育阻害と果実の着色不良
- ・排泄物に起因するすす病による作物の汚れや光合成阻害。

④ 対策(薬剤だけに頼らない防除)

- ・施設内に入れない
- ・前作を残さない
- ・苗による持ち込みを防ぐ
- ・外部からの侵入を阻止する(防虫ネット0.4mmなどの使用)
- ・増やさない(早期発見、発生初期の防除)

詳しくは普及センター・JAにお問い合せください

●花きの品目にストックを試作(宇治市)



▲「ストック互見会」の開催

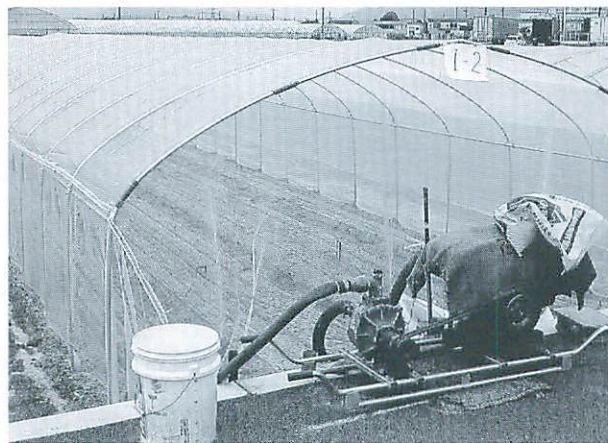
宇治市では、コギク、グラジオラス、シンテッポウユリなどの切り花栽培やシクラメンなどの鉢花栽培が盛んで、地域の主要な産品になっています。

宇治市花き生産組合(構成員30戸)では、新品目としてストックの試験栽培が行われ、今年度は5戸の農家に取り組んでいます。

普及センターでは、栽培講習会や八重鑑別研修会、互見会等を通じて、新規品目の栽培技術の向上、推進に努めています。



●安心・安全な野菜生産(久御山町・八幡市)



▲導入された防虫ネット小型簡易ハウス

八幡市の都々城共撰組合のネギ栽培農家8名が、「京野菜こだわり産地支援事業」を活用して防虫ネット小型簡易ハウス35aを導入しました。このハウスは夏季におけるネギハモグリバエ被害軽減に顕著な効果があり、農薬散布回数も約8分の1に削減されるなど、安心・安全なネギ栽培を推進できます。

また、山城管内では、土づくり、化学肥料・化学農薬の低減による環境にやさしい農業に取り組まれ、久御山町、八幡市の野菜作を中心に63名がエコファーマーの認定を受けています。

●ミズナ生産部会の品質向上の取組と食育活動(宇治田原町)



▲月2回のミズナ目合わせ会の様子

宇治田原町で平成8年に始まったミズナのハウス栽培は、約3ha、35名に拡大し、府南部最大のミズナのブランド産地となっています。

部会員は、定年退職後に初めて就農された方や茶農家が多いため、月2回の目合せ会、先進地・市場視察を定期的に行い、品質向上へ向けた活動が活発で、消費者へ安心・安全な農産物を提供できるよう日夜努力されています。

また、地域においても、老人ホーム、学校給食へのミズナの提供、小学生、保育園児の収穫試食体験など、地産地消・食育に関する活動も積極的に行っており、さらなる活躍が期待されます。

●精華町農作業のボランティア(精華町)



▲黒大豆の種まきをするボランティア

精華町の谷・北福地区では、遊休農地を利用したスイカのオーナー制や黒大豆・枝豆狩りなど、農村・農業の体験機会を提供しています。

これに必要な労力を補うため、農作業ボランティアを募集し、活動するシステムを平成17年度から試行しています。

平成18年度は25名が継続的に参加し、遊休農地の管理に貢献しているという自覚のもと、熱心に作業されました。地元農家からは「とくに黒大豆エダマメの栽培、収穫・調製の貴重な戦力として活躍いただきました」と感謝の意が表されました。

●いらっしゃい! 花野果市です(木津町)



▲お客さんが絶えない店内

平成14年3月の開店以来、年々売上を伸ばす花野果市。8割を超える常連のお客様がこのお店を支えてくれています。

生産者で組織された運営委員会は、お客様に喜んでもらえる店づくりのために日々工夫を重ねており、各生産者も独自の新しい作物や加工品を開拓するため意欲的に取り組んでいます。

普及センターでは、過去2年間の販売データに基づき、強化する品目の提案や栽培研修会の開催、消費者アンケートの実施などを支援しており、直売所の活性化による地産地消を今後も積極的に推進します。

●「綴喜おふくろ伝承の会」、食育のお手伝いががんばっています!!



▲園児にダイコン、エダマメのつくりかたや食べ方を伝承

綴喜地方生活研究グループ連絡協議会(会員109名)は、山城の食文化を次世代に伝えるため、自分たちが持つ技術を消費者や子供たちにわかりやすく伝承しようと「綴喜おふくろ伝承の会」を結成しました。

今年度は、園児を対象にトマトやエダマメ、ダイコンの収穫体験を、幼稚園の保護者や給食従事者を対象に野菜の話や郷土料理の講習を行い、食育活動をすすめました。

今後も「やましろ食育プロジェクト」と連携し、地域に伝わる郷土食や農業に対する理解を深める出前講座を開催していきます。